

広島県鉄構工業会が総会

山本理事長が6期目続投

協同組合広島県鉄構工業会（理事長・山本泰徳）は24日、組合員数80社は24日、広島駅前のホテルで第

挨拶する山本理事長



51回通常総会を開催し、約60人が出席した。役員改選で理事・幹事20人を任命し、山本理事長の6期目の続投を決めた。今年度は次世代リーダー育成を目的とした青年部会などに予算を増額した。冒頭、山本理事長は「理事長として10年が経過した。この間、鉄骨業界の地位向上、尊敬され、かっこいいと言われる業界にしたいとの一点でまい進して

きた。その結果は後世での評価となる。我々が日本のインフラを支えており、今後も高い技術と知見を生かしていこう。組合員は現在、80社を数えている。これが3桁になれば日本で三本指に入る組合となるのではないかと仲間を増やしながら業界の地位向上、各社の収益向上に貢献していきたい」などと述べた。続いて来賓の湯崎英彦広島県知事は建設業に時間外労働の上限規制が適用されたことに対する県政による労働環境改善や人手不足への対応に触れながら「皆さまには高度な知見・経験を生かし、建

築物への安心・安全の確保と鉄骨技術の一層の発展のため尽力いただきたい」と結んだ。総会後のセミナーでは、オリザコンサルテイング社長の三宅史紀氏が「円滑かつ発展的な事業承継のポイント」を題材に、事業承継時の納税資金の確保や節税対策、株式移転によるホールディングス化など具体的な事例を詳細に語った。懇親会の席では、来賓の挨拶が和やかに続く中で、会話が弾み、宴もたけなわなうちに一本締めで散会した。